



2025年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年5月14日

上場会社名 株式会社まぐまぐ 上場取引所 東
コード番号 4059 URL <https://www.mag2.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 熊重 晃
問合せ先責任者（役職名） 管理部門執行役員（氏名） 熊谷 翔太（TEL）03(5719)5703
半期報告書提出予定日 2025年5月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家、アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年9月期第2四半期（中間期）の業績（2024年10月1日～2025年3月31日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期中間期	220	△4.3	7	92.1	7	97.0	1	△51.1
2024年9月期中間期	229	△3.0	3	—	3	—	3	—
	1株当たり 中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益					
	円 銭		円 銭					
2025年9月期中間期	0.57		0.56					
2024年9月期中間期	1.17		1.15					

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年9月期中間期	963	814	84.5
2024年9月期	964	809	83.9

（参考）自己資本 2025年9月期中間期 814百万円 2024年9月期 809百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年9月期	—	0.00			
2025年9月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年9月期の業績予想（2024年10月1日～2025年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	486	6.8	23	314.9	23	313.8	22	—	7.93

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年9月期中間期	2,822,800株	2024年9月期	2,814,800株
② 期末自己株式数	2025年9月期中間期	49株	2024年9月期	49株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年9月期中間期	2,817,102株	2024年9月期中間期	2,814,751株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境に対する各種政策効果もあり、緩やかな回復基調にあります。しかしながら、世界的な物価の高騰や不安定な金融資本市場の動向により、依然として先行きが不透明な状態が続いております。

当社を取り巻く事業環境において、プラットフォーム事業が属する静止画・テキストコンテンツ市場につきましては、「デジタルコンテンツ白書2024」(一般社団法人デジタルコンテンツ協会)によると2023年度の市場規模は前年比98.5%の2兆8,628億円となりました。また、当社のメディア広告事業が属するインターネット広告市場につきましては、「2023年日本の広告費」(株式会社電通)によると2023年のインターネット広告費(インターネット広告媒体費のみ)は前年比108.3%の2兆6,870億円となり、前年に引き続き高い成長率で推移しております。

当中間会計期間における当社の業績は、売上高は220,020千円(前年同期比4.3%減)、営業利益は7,255千円(前年同期比92.1%増)、経常利益は7,446千円(前年同期比97.0%増)、中間純利益は1,614千円(前年同期比51.1%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① プラットフォーム事業

プラットフォーム事業においては、メルマガ配信プラットフォーム「まぐまぐ!」およびファンコミュニティプラットフォーム「MagOne(マグワン)」が属しております。

当セグメントの軸である有料メルマガサービスに関して、メディア広告事業と連携して新規クリエイターの獲得を推進しております。加えて、ユーザーインターフェースの改善に継続的に取り組んでいくことにより、プラットフォームの利便性の改善およびユーザビリティの向上に努めております。

その結果として、プラットフォーム事業の売上高は167,959千円(前年同期比16.3%増)、セグメント利益は92,591千円(前年同期比20.3%増)となりました。

② メディア広告事業

メディア広告事業においては、Webメディアの運営および「Webメディアコンテンツ」・「メルマガコンテンツ」の広告枠販売サービスが属しております。

Webメディアにおいては、自社メディア「MAG2 NEWS(まぐまぐニュース)」 「MONEY VOICE(マネーボイス)」 「TriP EDITOR(トリップエディター)」 「by them(バイゼム)」 「PLAYLIFE(プレイライフ)」を含めたメディアの知名度およびユーザー満足度の向上を模索してまいりました。事業効率化を推進する中で話題性のある記事を数多く掲載し、PVおよびUU数が堅調に推移した一方で、広告単価は高い水準を保ち続けております。また、Webメディアコンテンツ・メルマガコンテンツの広告枠販売においては、需要の高まりのある業種を中心に広告販売の強化を行っている一方で、タイアップ広告需要の減少および広告単価低下の影響を受けております。

その結果として、メディア広告事業の売上高は51,886千円(前年同期比39.3%減)、セグメント利益は16,078千円(前年同期比45.8%減)となりました。

③ その他事業

その他事業においては、イベント企画等が属しております。イベント企画は有料メルマガクリエイターの活動の支援と促進を目的としています。当社がメルマガクリエイターの活動を支援し、活性化のサポートをすることで、メルマガクリエイターの知名度と信頼性を向上させ、ブランディングに貢献しております。

その結果として、その他事業の売上高は173千円(前年同期は発生なし)、セグメント損失は87千円(前年同期は発生なし)となりました。

（２）財政状態に関する説明

① 資産、負債および純資産の状況

（資産）

当中間会計期間末における総資産につきましては、前事業年度末に比べ1,659千円減少し、963,257千円となりました。これは主に、売掛金及び前払費用が11,240千円減少した一方で、有形固定資産が8,161千円増加したこと等によるものであります。

（負債）

当中間会計期間末における負債につきましては、前事業年度末に比べ6,274千円減少し、148,878千円となりました。これは主に、その他流動負債が4,720千円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当中間会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ4,614千円増加し、814,378千円となりました。これは、中間純利益の計上により利益剰余金が1,614千円増加したこと並びに、ストックオプションの行使により資本金および資本剰余金が3,000千円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前事業年度末に比べ1,983千円減少し、832,252千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は12,922千円（前年同期比83.9%増）となりました。この主な要因は、税引前中間純利益を2,089千円計上したこと並びに、売上債権が6,317千円減少したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は13,939千円（前年同期比32.9%増）となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得として8,280千円およびオフィス移転に伴う敷金及び保証金の収支として5,336千円支出したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により獲得した資金は2,999千円（前年同期は0千円の使用）となりました。この主な要因は、ストックオプションの行使により3,000千円収入があったこと等によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年9月期の業績予想につきましては、2024年11月13日の「2024年9月期 決算短信」で公表した通期の業績予想から変更はありません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年9月30日)	当中間会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	830,269	832,252
売掛金	97,047	90,729
前払費用	14,427	9,503
その他	1,625	1,977
流動資産合計	943,369	934,463
固定資産		
有形固定資産	—	8,161
無形固定資産	—	311
投資その他の資産	21,547	20,320
固定資産合計	21,547	28,793
資産合計	964,917	963,257
負債の部		
流動負債		
買掛金	11,838	9,126
未払法人税等	4,022	4,100
預り金	100,856	101,936
その他	38,435	33,714
流動負債合計	155,153	148,878
負債合計	155,153	148,878
純資産の部		
株主資本		
資本金	319,328	320,828
資本剰余金	514,087	515,587
利益剰余金	△23,617	△22,002
自己株式	△35	△35
株主資本合計	809,763	814,378
純資産合計	809,763	814,378
負債純資産合計	964,917	963,257

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	当中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
売上高	229,819	220,020
売上原価	104,770	82,423
売上総利益	125,049	137,596
販売費及び一般管理費	121,273	130,340
営業利益	3,776	7,255
営業外収益		
受取利息	0	65
還付加算金	2	—
未払配当金除斥益	—	124
営業外収益合計	2	190
経常利益	3,779	7,446
特別損失		
本社移転費用	—	5,356
特別損失合計	—	5,356
税引前中間純利益	3,779	2,089
法人税等	475	475
中間純利益	3,304	1,614

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	当中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	3,779	2,089
減価償却費	—	129
のれん償却額	1,113	—
受取利息及び受取配当金	△0	△65
還付加算金	△2	—
売上債権の増減額(△は増加)	1,401	6,317
仕入債務の増減額(△は減少)	△409	△2,711
未払金の増減額(△は減少)	3,833	2,179
未払費用の増減額(△は減少)	△1,611	△27
預り金の増減額(△は減少)	△4,436	1,079
その他	3,382	4,815
小計	7,048	13,807
利息及び配当金の受取額	0	65
法人税等の支払額	△475	△950
法人税等の還付及び還付加算金の受取額	453	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,027	12,922
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△8,280
無形固定資産の取得による支出	△487	△322
敷金及び保証金の差入による支出	—	△9,304
敷金及び保証金の回収による収入	—	3,967
事業譲受による支出	△10,000	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,487	△13,939
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△0	△0
ストックオプションの行使による収入	—	3,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△0	2,999
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,460	1,983
現金及び現金同等物の期首残高	832,856	830,269
現金及び現金同等物の中間期末残高	829,396	832,252

(3) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純損失に当該見積実効税率を乗じた金額に、繰延税金資産の回収可能性を考慮しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間会計期間(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	プラットフォーム	メディア広告	計		
売上高					
外部顧客への売上高	144,398	85,421	229,819	—	229,819
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	144,398	85,421	229,819	—	229,819
セグメント利益	76,992	29,641	106,633	—	106,633

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、イベント企画等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 千円)

利益	金額
報告セグメント計	106,633
全社費用(注)	△102,856
中間損益計算書の営業利益	3,776

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「メディア広告事業」において、株式会社バヅクリからの事業譲受により、のれんの金額が増加しております。当該事象によるのれんの増加額は、当中間会計期間において、10,000千円であります。

当中間会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	プラットフォーム	メディア広告	計		
売上高					
外部顧客への売上高	167,959	51,886	219,846	173	220,020
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	167,959	51,886	219,846	173	220,020
セグメント利益又は損失(△)	92,591	16,078	108,669	△87	108,581

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、イベント企画等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 千円)

利益	金額
報告セグメント計	108,669
「その他」の区分の損失	△87
全社費用(注)	△101,326
中間損益計算書の営業利益	7,255

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。